

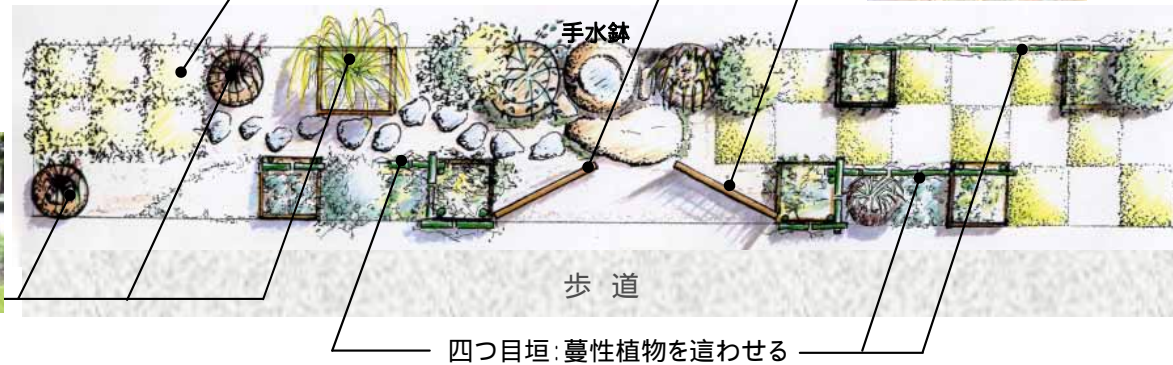
都市と緑のバランス ~ 丸の内ポケットオアシス ~

< 都市緑化のサステナビリティについて考える >

コンクリートやアスファルトに塗り固められた都市空間は砂漠のようなもの。人間にも過酷だが、植物にも同様に過酷である。そんな場所に、サステナビリティへのメッセージをこめて伝統的な和の空間を再現したい。



ニーム(インドセンダン)



Concept

植物にとって過酷な環境であるビルの壁面や屋上にも耐える、持続可能な美しい緑化空間を創造する。

四季を通して用いられてきた日本の伝統的な茶花には、この国の風土にあった自生植物が多く、施肥や消毒へのニーズは低い。そのような茶花の数々、また、水要求度の低いグラス類やイネ科の植物を植栽に多用する。

この庭は、建物表面の蓄熱を緩和するヒートアイランド対策や、都市型集中降水の流速をコントロールするストームウォーターマネジメント、そして住空間のエネルギー利用の効率化に資するサステナブルな都市緑化の試みである。

地上とは全く異なる条件地に緑空間を実現させるため、500mm角の緑化パネルを利用し、市松模様を表現。伝統的な竹の四つ目垣の手法を取り入れ、蔓性植物の植栽により更なる緑化を試みる。また、コンポストウォールを採用することで、和の空間に現代アートの要素を盛り込みながら、メンテナンス時の『剪定くず』などをゴミにしないことを訴える。



彩りの茶花たち